

楽 楽 ~Raku laku

2007年10月6日発行 担当：藤田

《練習日程》

月 日		会 場	時 間	備 考
10月	13日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	20日(土)	本地公民館 ご注意!	//	
	28日(日)	旭丘公民館	//	
11月	4日(日)	//	//	
	10日(土)	//	//	
	11日(日)	尾張旭市民音楽祭		※詳細別途
	17日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	25日(日)	//	//	
12月	1日(土)	//	//	
	8日(土)	//	//	
	15日(土)	//	//	
	22日(土)	//	//	

《ご報告》

◎第23回瀬戸合唱フェスティバル参加 9/16

「それは」「旅のかなたに」を歌いました。客席参加の中沢さんから感想を寄せていただきました。

◎第7回演奏会 第1回実行委員会開催 9/22

いよいよ始動です。演奏会概要、予算等について話し合いました。《詳細別途》

◎公民館まつりについて

10/20~22 開催 今年もポスター参加します。製作担当：S 藤田・・・未だにアイデアが浮かびません・・・。

◎尾張旭市民音楽祭について

毎年恒例の祭に今年も参加します。

曲目「Ave Maria (Victoria)」

「Ave Maria (Bust)」

「谷川の水を求める鹿のように (パレストリーナ)」(順不同)

※時間、衣装など未定です。担当者からの連絡にご注意ください。

瀬戸合唱フェスティバルの演奏を聴いて

S・中沢

みなさま、お疲れ様でした。

「それは」と「旅のかなたに」の2曲を聞いて、練習量の差がでているように感じました。一度、合唱祭で歌った「旅のかなたに」のほうが声も良く出ていたように思います。

課題点はたくさんあると思いますが、来年の演奏会目指してがんばりましょう。

今年の合唱フェスティバルで私が聞いた団体はどこも暗譜でした。

みなさんが前をむいて歌うのは、聞いているほうも気持ちのいいものだと感じました。



第7回演奏会

と き：2008年9月7日（日） 14:00開演

ところ：尾張旭市文化会館

*第1回実行委員会で以下のことを話し合いました。

ステージ構成：3ステージ（宗教曲集・「旅のかなたに」・親しみやすい曲集）

*曲目・曲順など神谷先生と技術委員で協議中です。乞うご期待！

プログラム・チラシ等：2色刷りのシンプルなるものを計画中です。

衣装：曲目構成が決まり次第、検討していきます。

広報活動：前回演奏会と同様の規模で行う予定です。

その他：特別練習（合宿含む）・長期的な視野でのヴォイストレーニング等検討していきます。

●実行委員会メンバー（敬称略）

担 当	チーフ	主メンバー
委員長	T 合瀬	
アドバイザー	B 早澤	
企 画	B 伊東	B 岩本、S 岩本
文 書	S 藤田	T 長谷川、A 平尾
渉 外（広報）	B 松本	B 橋詰、A 大沢
運 営	B 中島	A 近藤、B 林
運営（打ち上げ）	B 佐竹	S 久野、A 松本
衣 装	S 角田	S 小坂、A 長谷川
会 計	A 梅村	A 中畑、S 原
特別練習	S 須田	T 酒井、A 酒井

【音楽豆辞典】

ハヴィエル・ブスト(Javier Busto 1949～)

スペイン北東部バスク地方に生まれ、幼い頃に聖歌隊に所属し、ソプラノソロを歌っていた。医学の学位を取得。同時に独学で音楽を学び、現在は、作曲家、合唱指揮者として世界中から注目を集めている。作品は合唱曲がほとんどであり、その多くは混声合唱、女声合唱のための宗教音楽である。「Ave Maria」はマリアに対する讃歌、スペインの熱狂的なマリア信仰を彷彿とさせる。日本では、1990年代後半から彼の作品が演奏されはじめた。1997年には神戸混声合唱団の委嘱を受けて、混声合唱とクラリネットのための「Missa pro defunctis 死者のためのミサ」を作曲し、それ以来、たびたび日本の合唱界に関わっている。2000年、2002年には「東京カンタート」に招かれた。「Missa pro defunctis」は阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼するために書かれており、歌詞にはラテン語の他、『古事記』からの一節が日本語のまま使用されている。

トマス・ルイス・デ・ビクトリア(Tomás Luis de Victoria, 1548年 - 1611年)

黄金世紀スペインの生んだルネサンス音楽最大の作曲家の一人。16世紀スペインの作曲家では最も有名であり、多くの人からパレストリーナに次ぐポリフォニックな宗教音楽の大家と見なされている。1564年頃にローマに行き、パレストリーナに師事したことが伝えられている。又、パレストリーナの様式に影響されているのは確かである。1586年にスペインに帰国、今度は、マドリッドのデスカルサス・レアレス女子修道会の一員となった皇太后マリアに奉職することになる。ビクトリアは終生にわたってこの修道会にとどまり、司祭・作曲家・合唱指揮者・オルガニストなど、数々の役割をこなした。ビクトリアの作品は20世紀に復活を遂げ、近年たくさんの録音が制作されている。数多くの評者がビクトリア作品に、神秘的な烈しさと、直接に感情に訴えかけてくる特質を認めている。これらの特徴は、見方によっては、ビクトリアの偉大な同時代のイタリア人、パレストリーナの作品には見当たらない。

ジョヴァンニ・ピエルルイーギ・ダ・パレストリーナ

(Giovanni Pierluigi da Palestrina, 1525年?-1594年)

イタリア・ルネサンス後期の音楽家である。カトリックの宗教曲を多く残し「教会音楽の父」ともいわれる。ローマ近郊のパレストリーナに生まれる。ローマのサンタ・マリア・マジョーレ大聖堂の聖歌隊員となる。1544年、パレストリーナの教会でオルガン奏者になる。教皇ユリウス3世に求められ、1551年、教皇庁のジュリア礼拝堂の楽長、1555年にシステリーナ礼拝堂の聖歌隊歌手に任命された。イタリア・ルネサンスの時期、音楽はフランドルが中心であり、ローマ教皇庁の音楽隊にもフランドルの音楽家を招くという状態であったが、パレストリーナはイタリア人音楽家として大きな名声を得た。少なくとも100以上のミサ曲、250以上のモテトを初めとする数多くの教会音楽を作曲し、「教皇マルチェルス3世のミサ」が代表作である。

Ave Maria

Ave Maria, gratia plena: Dominus tecum.
Benedicta tu in mulieribus, et benedictus fructus
ventris tui, Jesus. Sancta Maria, mater Dei,
ora pro nobis peccatoribus nunc et in hora mortis nostrae.
Amen.

めでたしマリア、恩寵に満ちた方 主はあなたとともにあります。
あなたは女性の中で祝福された方、そして胎内の御子
イエスも祝福されています。 聖なるマリア、神の御母
罪深い我らの為に祈りたまえ。 今も、我らの臨終のときにも。
アーメン。

Sicut cervus desiderat

詩篇 第42編（聖書）より

Sicut cervus desiderat ad fontes aquarum:
ita desiderat anima mea ad te, Deus.

神よ、鹿が泉の水を慕いあえぐように、私の魂もあなたを慕いあえぐ。